

■新規セミナー練習問題■(介護予防)通所リハビリテーション

(問1)下記の設問1～2において、正しいと思う場合は○は、誤っていると思う場合は×をつけてください。

※利用人数の実績については、定員と同様の人数と仮定する

従業者の勤務の体制及び勤務形態一覧表
 (〇 年 〇 月分)
 サービス種類 (通所リハビリ・介護予防通所リハビリ)
 事業所番号(1412345666)
 事業所名(ZZリハビリテーション)
 1 単位目 区分: (病院)・診療所・老健
 定員:30名
 サービス提供日: (月)(火)(水)(木)(金)(土)・日
 サービス提供時間: 6時間15分

職 種	勤務 形態	資 格	氏 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	7月の 合計	常勤換算後 の人数
				水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
管理者	B	医師	横浜 太郎	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8	184	
理学療法士等	D	作業療法士	相模 さくら	6	6	6	6			6	6	6	6			6	6	6	6	6	6			6	6	6	6			6	6	6	6	6	138	0.8
	D	作業療法士	平塚 三郎						6					6									6					6							24	
看護職員	D	准看護師	小田原 梅子	2	2	2			2	2	2		2	2		2	2	2	2	2			2	2		2	2	2		2	2	2	2	2	46	
介護職員	D	一	逗子 なぎさ	4	4	4	4			4	4	4	4			4	4		4	4	4			4	4	4	4	4		4	4		4	4	88	
	B		葉山 満里奈	8	8	8			8	8		8	8	8		8	8	8		8	8		8	8		8	8		8	8	8		8	168		

勤務形態 A 常勤専従 B常勤兼務 C非常勤専従 D非常勤兼務

計算はすべて小数点第2位を切り捨て

常勤職員が勤務すべき1週あたりの勤務日数、勤務時間 5 日 (a) 週 40 時間 (b)

常勤職員が勤務すべき1日あたりの勤務時間 8 時間 (c)

7月の常勤職員が通常勤務すべき日数 22.2 日 (d)

常勤職員の勤務すべき曜日が同じ場合 当該月の常勤職員が勤務すべき曜日を足し上げた日数

常勤職員によって勤務すべき曜日が異なる場合の常勤職員が通常勤務すべき日数の計算方法 (a) × 4 + (月の日数 - 28) × (a) ÷ 7

常勤職員の1か月間における勤務すべき時間数 (c) × (d) 177.6 時間 (e)

常勤換算 常勤専従職員(予防との兼務は専従とみなす)の人数 + (非常勤職員等の勤務時間数合計 ÷ 常勤職員の1か月間における勤務すべき時間数(e))

【設問】

1 従業員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、介護職員）の配置が不足している。

[]

2 専らリハビリテーションの提供に当たる理学療法士等の配置が不足している。

[]

(問2) 下記の設問1～3において、正しいと思う場合は○は、誤っていると思う場合は×をつけてください。

※利用人数の実績については、定員と同様の人数と仮定する

従業者の勤務の体制及び勤務形態一覧表 (28 年 ○ 月分) サービス種類 (通所リハビリ・介護予防通所リハビリ)
事業所番号(1412345777) 事業所名(YYYリハビリテーション)
1 単位目 区分: 病院・診療所・老健 定員:10名 サービス提供日: 月・火・水・木・金・土・日 サービス提供時間: 6時間15分

職 種	勤務 形態	資 格	氏 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	7月の 合計	常勤換算後 の人数
				水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
管理者	B	医師	川崎 花子	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	92	
理学療法士等	D	理学療法士	横須賀 二郎	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	92	0.5
経験看護師	D	准看護師	茅ヶ崎 しおり	1	1	1			1	1	1	1	1			1	1	1	1	1			1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	23	0.1
介護職員	B	－	鎌倉 小町	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8	184	
	D	－	逗子 なぎさ	2	2	2			2	2	2	2	2			2	2	2	2	2			2	2	2	2	2			2	2	2	2	2	46	

勤務形態 A 常勤専従 B常勤兼務 C非常勤専従 D非常勤兼務

計算はすべて小数点第2位を切り捨て

常勤職員が勤務すべき1週あたりの勤務日数、勤務時間 5 日 (a) 週 40 時間 (b)

常勤職員が勤務すべき1日あたりの勤務時間 8 時間 (c)

7月の常勤職員が通常勤務すべき日数 23 日 (d)

常勤職員の勤務すべき曜日が同じ場合 当該月の常勤職員が勤務すべき曜日を足し上げた日数
常勤職員によって勤務すべき曜日が異なる場合の常勤職員が通常勤務すべき日数の計算方法 (a) × 4 + (月の日数-28) × (a) ÷ 7

常勤職員の1か月間における勤務すべき時間数 (c) × (d) 184 時間 (e)

常勤換算 常勤専従職員(予防との兼務は専従とみなす)の人数 + (非常勤職員等の勤務時間数合計 ÷ 常勤職員の1か月間における勤務すべき時間数(e))

【設問】

- 1 従業者(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護 職員、介護職員)の配置が不足している。 []
- 2 専らリハビリテーションの提供に当たる理学療法士等の配置が不足している。 []
- 3 経験看護師は、准看護師では認められない。 []